

アジア・太平洋研究センター主催，総合政策学部共催講演会 シリーズ講演会「アジア・太平洋研究センター開設 20 周年記念シリーズ 『変容する国際政治経済秩序のなかでのアジア太平洋地域を考える』」

日 時：2026 年 1 月 14 日（水）

場 所：南山大学 G 棟 1 階 G30 教室

演 題：インドとインド太平洋の地域秩序

講 師：伊豆山 真理氏（防衛研究所地域研究部主任研究官）
椎野 幸平氏（拓殖大学国際学部教授）



本講演会は、「インドとインド太平洋の地域秩序」というテーマで開催されました。冷戦が終結してより過去 30 年余り，自由経済，自由貿易を基本とする方向に政治経済の基本秩序は動いてきました。しかし，ウクライナ問題やトランプ政権の再登場などにより国際ルールの重視や自由貿易秩序自体が今揺らぎ，経済安全保障の方向が再び強まっているようにみえます。はたして世界の政治経済秩序はどのような方向に向かうのか，というテーマがとても重要となってきたと考えられます。そのなかで重要になる国の一つが経済成長著しいインドであると考えられ，インドの政治や外交についての研究に長らく取り組んでこれら防衛研究所の伊豆山真理主任研究官，貿易や直接投資の分野でインドに関連するご論考を多数発表されておられる拓殖大学の椎野幸平教授をお招きして講演会を企画しました。

まず，伊豆山主任研究官に，「米中競争とインドの多角的連携：インドとインド太平洋の地域秩序」と題するテーマでご報告をいただきました。講演の概要は以下の通りです。

インドの外交は，戦略的自律性を重視し，多角的な連携を進めてきたと評価でき

る。たとえば、ウクライナ戦争では対ロ関係を維持しつつバランス外交を展開し、米国も対中競争上これを一定程度容認しているが、関税措置など摩擦も存在する。日本の安全保障戦略においては、とくに中国の対外姿勢や軍事動向を重大な懸念としており、その中でインドは、日米同盟を基軸にクアッド（日米豪印戦略対話）を通じ協力を深める重要なパートナーと位置付けられてきている。

アジア太平洋に加えて、インド太平洋あるいは FOIP（自由で開かれたインド太平洋）という概念が用いられるようになってきた背景には、米国のリバランス政策や海洋安全保障、日米豪印協力の進展があり、インド側もこれを取り込みつつ影響力を拡大してきたことがある。歴史的にみると、米印関係は冷戦期の不信を経て、ポスト冷戦期に接近し、中国の台頭を背景に戦略的パートナーシップへと進展したと捉えられる。

中印関係は協調と競争が交錯し、経済的相互依存を維持しつつも国境紛争や一帯一路を巡る対立が深刻化している側面もある。特にガルワン衝突以降、インドの対中不信は強まり、FOIP やクアッド、経済安全保障政策を通じて対抗姿勢を強めている。インドは中国依存低減やサプライチェーン再編にも取り組んでいる。

まとめると、総じてインド外交は、戦略的自律を中核に多極世界を志向し、固定的な同盟に依存せず多角的連携を展開する点に特徴があると観察される。米国との協力を深めつつも独自性を維持し、グローバルサウスや多国間枠組みを活用して国際秩序形成に関与する姿勢が際立っていると評価できる。

次に、椎野教授より「変容する国際経済秩序とインドの対応：貿易政策を中心に」というテーマでご報告いただきました。講演の概要は以下の通りです。

新型コロナ禍やウクライナ戦争を経て、世界の貿易政策を巡っては、経済安全保障に関する議論が活発化するとともに、第2次トランプ政権（トランプ 2.0）による関税政策は、自由貿易を基軸とする国際経済秩序を揺るがす事態にもなっている。また、インドのモディ政権は、1991 年の貿易自由化の流れを反転させ、RCEP（地域的な包括的経済連携協定）からの離脱、さらには“Make in India”などの製造業振興を旗頭に、関税の引き上げ政策を展開するなど、保護主義的な貿易政策も推し進めてきている。

具体的には、インドは、1991 年の経済自由化路線への転換以降、バジパイ政権、マンモハン・シン政権のもとでのアジア諸国との FTA（自由貿易協定）の推進など貿易自由化政策を進めてきており、その影響はデータからも読み取れる。しかし、2014 年に成立したモディ政権は、RCEP 交渉からの離脱に加え、製造業振興を政策目的として、2018 年以降、関税の引き上げ政策を展開した。ただし、そのような自国市場や自国産業を保護しようとする貿易政策は、結果としては、FTA 締約国からの輸入を増やすなど、既存の FTA の利用価値を上昇させているという側面がある。

また、トランプ 2.0 による対インド相互関税（50 %）の影響としては、対米輸出には負であるものの、内需拡大政策の重視や、興味深いことに、輸出先の多元化を図るため、停滞していた FTA 政策の積極化などの方向性も垣間見える。

今回の講演会は、国際政治経済秩序において大きな変化が進行するなかで、インド独自の対応に光をあて、政治や外交、経済におけるインドの重要性を改めて認識させるものでした。インドが重視する戦略的自律や多角的な連携、経済的な合理性と経済安全保障の関係についてなど、フロアからも活発な質疑応答があり、南アジアに関する講演会も今後も企画できればと思います。

（文責：佐藤 創）